



平成29年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年7月28日

上場取引所 東

上場会社名 デジタルアーツ株式会社

コード番号 2326 URL <http://www.dai.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 道具 登志夫

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理部長

(氏名) 赤澤 栄信

TEL 03-5220-6045

四半期報告書提出予定日 平成28年8月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第1四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第1四半期	916	14.1	99	21.7	78	△8.1	13	△76.4
28年3月期第1四半期	803	19.4	81	127.1	85	139.5	57	259.2

(注) 包括利益 29年3月期第1四半期 △10百万円 (—%) 28年3月期第1四半期 65百万円 (305.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第1四半期	0.98	0.97
28年3月期第1四半期	4.14	4.13

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%		
29年3月期第1四半期	5,992		4,527		74.5	
28年3月期	6,133		4,642		74.7	

(参考) 自己資本 29年3月期第1四半期 4,466百万円 28年3月期 4,583百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	7.00	—	8.00	15.00
29年3月期	—	—	—	—	—
29年3月期(予想)	—	10.00	—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	2,222	14.8	608	22.5	608	21.9	363	15.5	26.08
通期	4,600	15.0	1,400	39.1	1,400	40.8	870	59.5	62.49

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
詳細については、四半期決算短信(添付資料)3ページの「2.サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご参照ください。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無
(注)詳細は、四半期決算短信(添付資料)3ページの「2.サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご参照ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期1Q	14,133,000 株	28年3月期	14,133,000 株
② 期末自己株式数	29年3月期1Q	199,800 株	28年3月期	201,800 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期1Q	13,932,606 株	28年3月期1Q	13,890,986 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)
本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予想が含まれており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、世界経済・競合状況・為替・金利の変動等もかかわるリスクや不安定要因により、実際の業績が記載の予想数値と大幅に異なる可能性があります。
なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信(添付資料)3ページの「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法)

当社ホームページに掲載しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(4) 追加情報	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(平成28年4月1日～平成28年6月30日)におけるわが国経済は、政府の積極的な経済政策を背景として雇用情勢は引き続き改善し、企業業績も底固く推移するなど緩やかな回復基調が続きました。一方で、新興国をはじめとしたグローバル経済の不確実性の高まり、英国のEU離脱問題などの影響により急速に円高が進行するなど、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループが属するセキュリティ業界におきましては、特定の企業等を狙った標的型攻撃により大規模な個人情報流出が発生するなど、セキュリティ事件・事故がますます深刻化し、情報セキュリティ担当者のみならず、経営層にも情報セキュリティ対策強化の意識が高まっております。また、総務省より「自治体におけるセキュリティ強靱化を図るための指針」が示されたことを受け、各自治体でセキュリティ強化を図る動きが活発化いたしました。

このような状況の中、当社グループは国内につきましては相対的に高度なセキュリティ対策を必要とする大規模企業・組織に対して販売活動を強化いたしました。具体的には、国内大規模企業・組織に特化した専門部署を新設したことに加え、大規模導入・グローバルツールとしての活用を検討されるお客様に対して付加価値の高い提案、導入支援を行うためのコンサルティング子会社を設立し、活動を開始いたしました。

また、公共向け市場においては「自治体におけるセキュリティ強靱化を図るための指針」で要求されるセキュリティ水準を満たすソリューションの提供を目的として、他社との連携を図りながら販促活動を進めました。

一方、海外につきましては米国子会社であるFinalCode, Inc.において前連結会計年度に注力したブランディング活動の成果を具体的な売上に繋げるため、パートナーとの関係構築など、より具体的な販売活動を進めました。また、アジア・太平洋地域の拠点であるFinalCode Asia Pacific Pte. Ltd.においてもFinalCode, Inc.同様、販売網の構築と案件の積上げを進めました。欧州拠点であるFinalCode Europe Limitedにおいては、人材の採用を中心に活動を行い、第2四半期以降具体的な活動を行うための体制整備を進めました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は916,915千円(前年同期比114.1%)となりました。また、利益面につきましても国内人員増、海外拠点の拡充に伴う経費増等があったものの、売上の増加を主要因として、営業利益は99,340千円(前年同期比121.7%)となりました。一方で、急速な円高の進行による為替差損の発生(20,061千円)、海外子会社において投資が先行していることを主要因とした税金負担増等があり、経常利益は78,953千円(前年同期比91.9%)、親会社に帰属する四半期純利益は13,601千円(前年同期比23.6%)となりました。

各市場の業績は次の通りです。

企業向け市場

企業向け市場におきましては、主力製品である「i-FILTER」「FinalCode」の販売が順調に推移いたしました。特定の企業等を狙った標的型攻撃による被害が深刻化し、経営者の情報セキュリティ対策強化に対する意識が高まったことを背景として、昨今の多様で複雑なリスクへの対応を可能とする「i-FILTER」や「i-FILTER ブラウザー&クラウド」の導入が進みました。また、「FinalCode」につきましては、大規模な顧客情報の流失事故が多発する中、前連結会計年度にリリースした、FinalCode Ver. 5により実現する全社レベルでの高度なファイルセキュリティが、大量の顧客情報を扱う企業等のニーズを捉え、着実に売上が伸びてまいりました。

以上の結果、企業向け市場の売上高は、530,169千円(前年同期比115.9%)となりました。

公共向け市場

公共向け市場におきましては、主力製品である「i-FILTER」「m-FILTER」「FinalCode」の販売が順調に推移いたしました。企業向け同様、セキュリティ強化を求める大規模団体を中心として「i-FILTER」の大規模新規案件の獲得が進みました。また「FinalCode」につきましては、都道府県庁、市役所、町村役場をはじめとする公共団体が求める機能をシンプルに提供することを目的とした「FinalCode 自治体限定版」の導入が順調に推移し、売上が拡大いたしました。加えて、総務省が求める自治体情報セキュリティ対策の抜本的強化に関する指針を受け、各自治体でサイバーセキュリティ強化関連予算が設けられており、各市区町村においてはセキュリティ対策向上(「自治体情報システム強靱性向上モデル」)、各都道府県においてはインターネット接続口を集約化し、監視機能を強化(「自治体情報セキュリティクラウド」)する動きが活発化し、案件が飛躍的に増加しております。当社グループは当該指針への対応策として、『「i-FILTER(またはD-SPA)」によるWebアクセスの一元化』『「m-FILTER」によるインターネットメールの無害化』『「FinalCode」による住民(個人)情報の流出対策』の提案を進めており、第1四半期連結累計期間においては「m-FILTER」の売上が拡大いたしました。第2四半期以降見込案件を着実に獲得し、さらなるシェアの拡大を目指してまいります。

以上の結果、公共向け市場の売上高は、296,908千円(前年同期比115.8%)となりました。

家庭向け市場

家庭向け市場におきましては、引き続き携帯電話事業者や提携先と連携し、スマートフォン向け「i-フィルター」のモバイル端末版の拡販と協業拡大に努めました。

個人向けパソコンの国内出荷台数は引き続き減少傾向ではあるものの、OEMによる販売、複数年パッケージ製品の出荷が好調であったことなどを主要因としてパソコン版の売上が底固く推移しました。また、モバイル版につきましては、1つのシリアルIDでWindows、iOS、Android[™]の3つのOSでご利用いただける「i-フィルター[®] for マルチデバイス」の直販が好調に推移し、売上が伸張いたしました。

以上の結果、家庭向け市場の売上高は、89,837千円（前年同期比100.2%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産は、前期末売上分回収に伴う売掛金の減少等により、前連結会計年度末に比べ141,131千円減少し、5,992,728千円となりました。

(負債)

負債は、税金納付による未払法人税等の減少等により、前連結会計年度末に比べ26,947千円減少し、1,464,878千円となりました。

(純資産)

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したものの、配当の支払い等により、前連結会計年度末に比べ114,184千円減少し、4,527,849千円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間の業績は概ね順調に推移しており、通期の連結業績見通しにつきましては、平成28年5月11日に公表いたしました業績見通しと変更はございません。

なお、業績見通しにつきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき当社で判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。今後重要な変化がある場合には、適切に開示してまいります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、当第1四半期連結会計期間において、デジタルアーツコンサルティング株式会社を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

（平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用）

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を当第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この変更による当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響はありません。

(4) 追加情報

（繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用）

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,942,965	2,954,724
売掛金	1,081,626	884,814
有価証券	100,909	100,909
製品	413	1,119
繰延税金資産	73,813	73,944
その他	62,884	82,396
流動資産合計	4,262,613	4,097,908
固定資産		
有形固定資産	127,257	122,942
無形固定資産		
ソフトウェア	821,395	766,723
その他	174,131	249,949
無形固定資産合計	995,526	1,016,672
投資その他の資産	748,462	755,204
固定資産合計	1,871,246	1,894,819
資産合計	6,133,859	5,992,728
負債の部		
流動負債		
買掛金	5,844	11,240
未払法人税等	283,949	62,628
賞与引当金	109,975	58,933
前受金	721,033	840,823
資産除去債務	—	1,127
その他	327,288	447,409
流動負債合計	1,448,091	1,422,162
固定負債		
資産除去債務	43,089	42,071
その他	645	645
固定負債合計	43,734	42,716
負債合計	1,491,826	1,464,878
純資産の部		
株主資本		
資本金	713,590	713,590
資本剰余金	766,234	769,807
利益剰余金	3,220,233	3,122,385
自己株式	△117,511	△116,347
株主資本合計	4,582,547	4,489,435
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	1,208	△22,471
その他の包括利益累計額合計	1,208	△22,471
新株予約権	58,278	56,240
非支配株主持分	—	4,645
純資産合計	4,642,033	4,527,849
負債純資産合計	6,133,859	5,992,728

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	803,529	916,915
売上原価	211,388	240,819
売上総利益	592,141	676,096
販売費及び一般管理費	510,482	576,755
営業利益	81,658	99,340
営業外収益		
受取利息	229	268
受取手数料	44	43
為替差益	3,815	—
雑収入	199	34
営業外収益合計	4,287	346
営業外費用		
為替差損	—	20,061
雑損失	—	672
営業外費用合計	—	20,733
経常利益	85,946	78,953
特別利益		
新株予約権戻入益	3,538	10
固定資産売却益	2,638	—
特別利益合計	6,177	10
税金等調整前四半期純利益	92,123	78,964
法人税等	34,553	65,717
四半期純利益	57,570	13,246
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△354
親会社株主に帰属する四半期純利益	57,570	13,601

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
四半期純利益	57,570	13,246
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	7,741	△23,679
その他の包括利益合計	7,741	△23,679
四半期包括利益	65,311	△10,433
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	65,311	△10,078
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△354

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。